

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690200106		
法人名	医療法人 三幸会		
事業所名	ケアサポートセンター千本今出川 (グループホーム)		
所在地	京都府京都市上京区元誓願寺通千本東入元四丁目424番地の2		
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果市町村受理日	平成27年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2690200106-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1F		
訪問調査日	平成27年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西陣で京町屋の雰囲気や木を大事にした建物になっている。事業所内も、木の温もりを大切に家具などを使用している。食事は3食手作りを基本とし、入居者と一緒を作るようにしている。食事以外でも、掃除や金魚の飼育など、出来ることはしてもらい、入居者の残存能力を活かせるように努めている。多機能との併設でもあり、合同で行事を行う以外でも、日常的に行き来し、お互いに交流を持てるようにしている。また、開設当時から児童館との交流を定期的に行い、障害のある・なしに関係なく、楽しく過ごせる時間を設けたり、月に2回のフラワーセラピーや鉢植えの育成、散歩などを通じて、自然に触れる機会をつくるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人三幸会が西陣の西方に当たる千本今出川の地に、平成24年9月に地域密着型事業所としてグループホームと小規模多機能を開設された。ケアサポートセンター千本今出川である。近在には、浄福寺・北野天満宮・千本商店街等慣れ親しんだ場所が数多く存在している。昔ながらの京町家が並び、事業所も格子を模した作りになっている。「安心してゆったりと、その人らしい暮らし」を支援する事を目標としている。自治会に入会し地域住民の一員である事を明確にし、近在の住民や児童館等他の施設との交流を図っている。非常勤職員にも「研修」に参加する機会を設け、全職員の質の向上に繋げている。「記録の書き方」の勉強会を行い、経過観察記録等に成果が上がりつつある。一人ひとりの日常生活の様子・言葉・表情等が記載されているので、その人らしさを把握しやすくなっている。職員会議とカンファレンスを一緒に実施していたのを分離して、主治医・家族等の参加を得てカンファレンスを実施し、よりその人に即した支援計画が立てられる様に努めている。定期的な家族等へ送付するお便りには「はんなり」と名付けていて、ここでも事業所の優しさを感じる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一日一笑・一喜一憂・一期一会」の事業所理念に基づき、入居者や家族を大切に考えて、想いを受け止めながら業務にあたっている。笑顔の多い事業所であると感じている。	法人の理念に沿って、事業所としての理念を職員で話し合い「思い」を文言に託している。小規模と合同のパンフレット・広報紙に記載して、利用者や家族等・地域住民・職員が共有している。管理者・職員は「あなたに会えてよかった」と言って貰える様に、笑顔で日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童館との交流を定期的に行っている。また、地域行事があれば可能な限り参加している。事業所で使用する食材は、地元商店街のスーパーに協力を頂き、配達してもらっている。	自治会に入り地域の一員としての立場を明確にして、近隣住民との交流を大切にしている。地藏盆等地域の行事・事業所の夏祭り等に、お互いに参加し合っ楽しみを分かち合っている。自治会の食事会には職員が参加し、介護保険制度等の情報を提供したり相談を受けたりしている。近在の商店街で食材等を購入し配達して貰う事で事業所との距離を近づけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公園やお地藏様まで散歩したり、近隣の店まで入居者と買い物に行くなどしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や入居者・家族の想いなどは、職員会議やカンファレンスでも議題にして、話し合うようにしている。	会議は、小規模多機能と合同で開催している。双方の利用者・家族と、地域包括の職員・児童館館長が参加され、事業所職員が参加している。管理職と共に常勤・非常勤の介護職員も順番に参加して、全職員が会議を理解し共有を図っている。事業所の状況を詳しく報告し、情報・意見交換を行っている。児童館から行事参加の依頼や地域サロンの開催についての意見等活発に出ている。	家族等出席者から貴重な意見が出されています。議事録として、その中から提案事項・課題等を抽出して纏められたら如何でしょう。改善が必要な事案に対して検討した事の報告を次回の会議で報告されたら出席者の信頼がより深まると思われます。更に、会議そのものが継続性を持ったものになり、全職員が理解しやすく共有出来ると考えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上京連絡会やグループホーム部会などに参加し、他事業所との意見交流を行っている。	行政には、運営推進会議の議事録や介護保険関係の書類等持参した際担当職員と情報・意見交換を行っている。必要に応じて、報告・相談を行いアドバイスを得る等協力関係は築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束防止マニュアルを作成し、定期的な研修も行っている。今後は事業所内でも勉強会を開催していく予定。事業所で拘束を行ったことはない。	「身体拘束をしないケアの実践」については、マニュアルや研修等で全職員が周知する様に努めている。身体的な拘束だけではなく、行動を抑制するような言葉遣い等についても「接遇マナー」をテーマにして研修会を開催している。日常の業務の中でも「ちょっと待って」と言った言葉等に対してお互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で定期的な研修を行っている。また、地域包括・上京虐待委員との連携もあり、定期的に意見・情報交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人としてマニュアルを作成し、定期的な研修も行っている。現在、制度を利用している入居者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をかけて、必要であれば何度でも面談を行い、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、入居者・家族を対象とした満足度アンケートを実施しており、結果を基に職員会議や管理者会議で話し合い、改善に努めている。	運営推進会議や満足度調査から、利用者・家族等の意見・要望を聞き取っている。日常的には、来所時に交わした会話等から意見や要望を聞き取る様に努めている。居室の掃除についてや散歩や外食・ドライブ等についての意見・要望があり、改善に向けて話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務に関しては現場の意見を大切にして反映させている。統括部長による定期的な訪問もあり、常に相談しやすい環境になっている。	管理者は、日常的に業務の中で職員からの意見を聞き取っている。職員会議をカンファレンスも含めて行っていたが、職員からの提案で職員会議とカンファレンスを分けて行う様にした。服薬の件で、医師・家族・職員が話し合いの場を持ち、薬を減らす事で様子観察している事例がある。職員アンケートも実施しており、電話の子機の使い方や管理者不在時の事業所の説明に関する件等の意見があり改善に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業も少なく、定時に帰れるようにしており、勤務に関しては夜勤や日勤のバランスを考えながら作成している。また、非常勤からパートナーへ、パートナーから常勤への昇格もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に初任者研修養成校があり、参加しやすい環境になっている。また、法人の定期研修や職員のレベルに合わせた外部研修にも参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所連絡会をはじめ、上京のネットワークも出来つつある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の時間を多くとって情報収集し、現場に伝達している。入居後は関わりを多く持ち、本人が新しい生活に安心して馴染めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者本人の意向と家族の意向をしっかりと聞き、プランに反映出来るようにしている。家族とはこまめに情報交換をするようにし、必要があれば主治医などを交えたカンファレンスも開催している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験利用や見学を積極的に行い、事業所の雰囲気などを感じてもらっている。もしも合わなければ他事業所を紹介するなどの協力も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他職種とも連携を図りながら、本人が望む暮らしの実現を考えている。出来ることを見極め、残存能力を大切にして、出来ることは極力自分でしてもらい、必要なところは援助するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が、一番安心して本人と関わっていけるよう、サービスを考えていく必要もあると考えている。家族の協力も同じように大切であり、必要な面談や相談には真摯に対応していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店で買い物をしたり、近隣の天満宮や馴染みのある建物を中心にしたドライブに行くように努めている。	友人や親戚の方の来訪があればゆっくり過ごして貰える様に配慮している。昔住んでいた場所へ行ったり、行きつけの店での買い物や美容院等の支援を行っている。馴染みのある神社やお寺にお参りがてらにドライブして、新しい思い出を作っている。出来る限り、今までの関係を大切に考えて支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で交流を持っている時には、自主性に任せて見守りのみ行っている。場合によっては関係が円滑にいくよう、またトラブルにならないように職員が間に入ることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に本人が亡くなったりした際に家族から連絡が来ることもあるが、事業所側では退去後の様子を把握出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談時から情報収集を行い、定期的にカンファレンスを開催して見直しを行っている。また、本人に直接、思いや要望を聞き、プランに反映させている。	初回面談で生活歴や心身状況・今後の希望等聞き取って、統一した書式で記録している。入居後は日常生活の中からの情報を追記している。家族等や医療関係者からも情報を得ている。意思伝達が困難な場合は行動や表情・仕草さ等から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に情報収集を行い、家族からも話を聞くなどして把握に努めている。また、入居後も本人に普段の会話から昔の話を聞いたり、センター方式シートを作成するなどして、職員で情報を共有出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記に加え、経過観察記録用紙にも気になることは詳細に記入し、情報の把握・共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンスで課題や援助方法を話し合い、プランを作成している。また、主治医なども交えた家族とのカンファレンスも開催し、本人の現状の把握・情報の共有と理解に努めている。	日々の様子を経過観察記録に記載し、毎日介護計画に沿った支援が出来たかを確認している。この情報を纏めて三ヶ月でモニタリングを行い六ヶ月で介護計画の見直しを行っている。見直しには、家族等・医療関係者からの意見も反映させている。経過観察記録には、言葉や表情・仕草等を丁寧に記録しているため、「その人らしい」情報が得られて、現状に即した介護計画になっている。「記録について」の勉強会を実施した結果その効果が上がりつつある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過観察記録用紙に詳細を記録し、プランに沿った援助が出来ているか、毎日確認している。また援助する中で気付いたことなども積極的に記録に記入するようにしている。朝と夕に申し送りを行い、情報共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に事態に対応出来るよう、職員間で情報共有に努めている。また、業務中は声をかけ合い、連携がしっかり取れるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童館との交流や近隣の店へ買い物に行くなどしている。また地域行事にも参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者ごとにかかりつけ医がおり、定期的に往診に来てもらっている。気になることなどがあれば、積極的に聞くようにし、入居者の健康が保たれるように努めている。また、夜間の緊急時にもかかりつけ医とすぐに連絡が取れ、対応してもらえるようにしていく予定。	かかりつけ医は、それぞれの希望により決まっており往診して貰っている。又、全員訪問看護の利用をしており、かかりつけ医との連携で健康管理が出来ている。緊急時の協力体制も出来ている。医師の往診時には、介護職が立ち会い情報交換し記録して全職員が情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師の来所があり、気になることなどがあれば相談している。また、夜間も何かあれば連絡し、指示がもらえる体制が出来ており、場合によっては来てもらうことも可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった際は速やかにサマリーを作成し、入院先の病院へ詳細な情報が提供出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人としての指針があり、定期的に研修も行っている。現在、該当者はいないが、看取りを希望している家族も多く、今後は事業所内での研修を重ね、必要に応じて家族や主治医とのカンファレンスも行っていく予定。	現在、該当する入居者はいないが看取りを希望する家族が多く、法人で行う研修に参加して必要に応じて対応できる様に研鑽に努めている。又、傘下の事業所で看取りを経験した職員が異動で入職してきたので、この経験を活かせる様に勉強会を開いて全職員の理解を深めている。主治医や家族等とも話し合いの機会を持つことを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回の救命講習を実施し、事業所内に設置してあるAEDの使い方を含めて勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施している。実施時には消火器の使用法も教わるようにしている。また、消防士からも細かいアドバイスをもらっている。	消防訓練は、昼・夜を想定して年二回小規模多機能と合同で行っている。上京消防署と大宮出張所から職員が参加してアドバイスしている。入居者も一緒に参加して全員が認識を深めている。AEDの使用法も研修している。近隣の住民には案内状を出しているが、今の所参加はない。地域の消防訓練には、職員が参加している。備蓄は、食料品や排泄用品等必要な物品は保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応に関しては、意識に欠けていることも多く、今後の課題。事業所内での研修を行い、改善に努めたい。	法人主催の研究発表会で「接遇マナー」についての事例発表会を開催し、全職員が認識を深める様に努めている。パンフレットにも「一人ひとりがその人らしく」と表明し、一人ひとりを敬い大切に接する様に配慮している。特に言葉遣いや対応によって、プライドやプライバシーを損ねる事があり、日常業務の中でうっかり不適切な言葉を使った場合、職員間で話し合っている。今後も課題の一つとして勉強会を行っていく。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴をはじめ、生活の様々な場面において本人が選択し、決定できるように支援している。希望があった場合は可能な限り添えるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の提供時間などは事業所の方針で進めることが多いが、それ以外においては、基本的には本人の希望に沿って過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出が可能であれば行きつけの美容院に、希望があればセンターでの訪問美容も利用してもらっている。衣類は基本的には入浴時などに本人に選んでもらっている。また、持ち歩いているカバンに化粧品を入れて、好きな時に取り出して化粧する方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には3食手作りとし、入居者の希望を献立に反映させたり、苦手な物は代替えを用意したり、楽しい雰囲気と自分のペースで食事が出来るように努めている。	毎日の献立は、入居者の希望を反映させて三食手作りしている。食材は、近隣の商店から配達して貰って、入居者の希望や能力に応じて職員と一緒に下拵えや調理をしている。職員も一緒におしゃべりしながら食事を楽しんでいる。外食でおすしを満喫したり、和菓子の老舗に行って好みのお菓子を選んでうれしい時をすごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給用にスポーツドリンクで作ったゼリーを常備。好きな飲み物を選んでもらって提供するのとは別に随時提供し、しっかり水分が摂れるように気を付けている。また、食事に関しては、その人の状態に合わせて量を調整したり、形状を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員が歯磨きを行っている。出来る限り、自分の力で磨いてもらい、出来ない所は援助している。また、歯科医や歯科衛生士との連携も取っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の状態に合わせて、声かけや誘導をしている。排泄表をこまめにチェックし、出来る限りトイレで排泄が出来るように努めている。	個々人の排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。適宜、さり気なく声掛けや誘導して気持ちよく過ごせる様に配慮している。入居されてからパットの使用量が減ってきている入居者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給をし、しっかりと水分が摂れるようにしている。毎日体操を行い、入居者の状態に合わせて階段の昇降運動なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	タイミングを見て声をかけ、準備から一緒に行う。リラックスして入ってもらえるように入浴剤などを使用したりしている。	本人のその日の体調や気分を考慮しながら入浴を決めている。着替えの準備から職員と一緒に、湯船に浸かるタイミングも個人の好みに合わせて見守っている。入浴剤は好みのものを使っている。季節湯も楽しい入浴になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も本人の状態を見て、臥床してもらっている。夜間は室温や湿度に気を付けてこまめに調整し、足が冷える方には湯たんぽを使用するなどして、ゆっくり眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬忘れや服薬間違いがないように気を付け、服薬時には名前や日付を確認した後、落としたりしないよう最後まで見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合ったレクを用意したり、調理や掃除などで役割を持ってもらうようにしている。季節の行事も大切に、四季を感じてもらえるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やドライブが主だが、希望があれば買い物へ行ったり、家族と定期的に外食する方もいる。	日常的には近在のお寺に行く道が散歩道になっている。馴染んだ商店街に買い物に行く事もある。季節のお出かけで千本釈迦堂や宝ヶ池にドライブしている。夏には祇園祭りに車中での鈍見物ではあるがうれしい一時を過ごした。外食にも出掛けている。家族等と一緒に旅行する入居者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立て替え金にて必要物品の購入を行っている。入居者が金銭に触れる機会はない状態。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があれば本人へ取り次ぎ、話をしてもらう。手紙やはがきが来た場合も本人へ手渡している。入居者には2ヶ月に1回、家族へ送っている近況報告のお便りに一言書いてもらったりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを入居者と一緒に行っている。生活空間は整理整頓を心がけ、トイレも日中と夜間の2回清掃を行うなど清潔を保てるように努めている。また適温・適湿に気を付けている。	玄関は落ち着いた雰囲気があり、二階に上がると広い明るいリビングが迎えてくれる。グループホームは二階が住いになっている。窓の外を見下ろすと中庭が見え季節を感じる事が出来る。入居者の動線を配慮してテーブルやソファを配置している。大きなテレビで朝の連続ドラマを見たり、野球や相撲を見て楽しんでいる。それぞれが思い思いの場所で寛いでいる。オープンキッチンから煮炊きの匂いが漂い生活感がある。不快な音や臭いも感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座席位置を考慮したり、好きな時に居室やソファで過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使う慣れた家具や物品の持参がある。また折り紙や塗り絵などの作品を飾ったり、室温や換気に気を付けている。	全室たたみになっているが、ふとん・ベッドの選択は好みで選んでいる。使い慣れたタンスや衣桁・鏡台を使いやすい様に配置している部屋もある。仏壇を置き花を供えたり、家族写真を飾ったり、折紙の作品を飾ったりそれぞれが自分の好みに合わせた部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設置されている手すりが有効に使えるように家具の配置を考慮したり、場所によっては椅子を置き、安全に歩行・移動が出来るようにしている。		